



# Sun SPARC<sup>®</sup> Enterprise T5140 および T5240 サーバプロダクトノート

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 820-4246-12  
2008 年 11 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

富士通株式会社は、本製品の一部に対して技術提供および調査を行いました。

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して米国 Sun Microsystems 社および富士通株式会社がある知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社およびサン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものではありません。本書は、富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または米国 Sun Microsystems 社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, Netra, Sun StorEdge, docs.sun.com, OpenBoot, SunVTS, Sun Fire, SunSolve, CoolThreads, J2EE は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. 社および富士通株式会社が米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のものも第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

<b>原典:</b>	<i>Sun SPARC Enterprise T5140 and T5240 Servers Product Notes</i> Part No: 820-3312-12 Revision A
------------	---



Adobe PostScript



# 目次

---

1. Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバに関する重要な情報 1
  - SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのサポート 2
    - 技術サポート 2
    - ドキュメントのダウンロード 2
    - 暗号化サポート 2
  - IPsec 暗号化ハードウェアの高速化の有効化 3
  - サポートされる Solaris および Sun System Firmware のバージョン 3
    - 特定機能に関する System Firmware の要件 5
    - System Firmware 5
  - プリインストールされているソフトウェア 6
    - CoolThreads テクノロジーを利用した Sun サーバ用の Cool Tools 7
    - Logical Domains 7
    - Sun Java Enterprise System および Solaris OS 8
      - ▼ WebConsole SMF サービスを有効にする 8
    - Solaris Live Upgrade 8
    - Sun Studio - C、C++、および Fortran のコンパイラとツール 9
    - サポートされている Sun Explorer ユーティリティーのバージョン 9
  - パッチ情報 10
    - Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ情報 10

Solaris 10 5/08 OS の必須パッチ情報	10
パッチ CD	11
▼ パッチをダウンロードする	12
オプションカード用のパッチ	12
アイドル状態のディスクドライブによる消費電力の管理	13
Logical Domains を Solaris OS と併用した場合の動作上の変更点	13
制御ドメインを停止または再起動した場合の結果	14
XAUI カードがオンボードのネットワークポートを使用不可にする	14
CPU のホットインサートイベントの可能性を示すメッセージ	15
プロセッサ ID	16
プロセッサ ID が 0 で始まらないことや、プロセッサ ID が不連続である ことがある	16
2. 既知の問題	17
ハードウェアおよび機器に関する問題	17
フロントパネルの DVD および USB モジュール	17
ホットスワップ対応のファンモジュール	18
予期しない LED 動作	18
Solaris OS に関する問題	19
Integrated Lights Out Manager (ILOM) に関する問題	19
ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題	21
3. ドキュメントの正誤情報	23
『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバインストレーションガイド』の誤り	23
システム状態インジケータの順序	23

# 表目次

---

表 1-1	サポートされている OS およびファームウェアの最小バージョン	4
表 1-2	プリインストールされているソフトウェア	6
表 1-3	Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ	10
表 1-4	Solaris 10 5/08 OS の必須パッチ	10
表 1-5	パッチ CD のコンポーネント	11
表 1-6	制御 (primary) ドメインを停止または再起動した場合の予想される動作	14
表 2-1	Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのハードウェアに関する問題	18
表 2-2	Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバの Solaris OS に関する問題	19
表 2-3	Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバの ILOM に関する問題	20
表 2-4	Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのファームウェアおよび一般的なソフトウェアに関する問題	21



# 第1章

## Sun SPARC Enterprise T5140 およ び T5240 サーバに関する重要な情 報

---

本書では、SPARC® Enterprise T5140 および T5240 サーバに関する重要な最新情報について説明します。

次の節で構成されています。

- 2 ページの「SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのサポート」
- 3 ページの「IPsec 暗号化ハードウェアの高速化の有効化」
- 3 ページの「サポートされる Solaris および Sun System Firmware のバージョン」
- 6 ページの「プリインストールされているソフトウェア」
- 10 ページの「パッチ情報」
- 13 ページの「アイドル状態のディスクドライブによる消費電力の管理」
- 13 ページの「Logical Domains を Solaris OS と併用した場合の動作上の変更点」
- 16 ページの「プロセッサ ID」

---

# SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのサポート

この節では、技術サポート、ソフトウェア、およびドキュメントの入手先について説明します。

## 技術サポート

SPARC Enterprise T5140 または T5240 サーバのドキュメントに記載されていない技術的な質問または問題がある場合は、ご購入先に問い合わせてください。米国またはカナダのユーザーの場合は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) に問い合わせてください。

## ドキュメントのダウンロード

サーバの設置、管理、および使用に関する手順は、SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのドキュメントセットに記載されています。次の Web サイトから、ドキュメントセット全体をダウンロードして入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t5140>

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t5240>

---

注 – 本書に記載されている情報は、SPARC Enterprise T5140 および T5240 のドキュメントセットの情報よりも優先されます。

---

## 暗号化サポート

UltraSPARC® T2 Plus マルチコアプロセッサを使用すると、ハードウェア補助によって、次の数種類の暗号化処理が高速化されます。

- 対称処理 (AES、3DES、および RC4)
- 非対称処理 (RSA、DSA、Diffie Hellman、および楕円曲線)
- ハッシュ生成 (SHA1、SHA256、および MD5)
- 乱数生成

Solaris™ 10 8/07 OS 以降では、ハードウェア補助による暗号化をサポートするマルチスレッド化デバイスドライバが提供されています。

---

## IPsec 暗号化ハードウェアの高速化の有効化

IPsec 暗号化処理を有効にして UltraSPARC T2 Plus プロセッサ上で暗号化ハードウェアを使用するには、IPsec 有効化パッケージが入手可能になった時点で、これを入手してインストールする必要があります。起動ファイルと必須パッチが入手可能になるまで、ソフトウェアの高速化を使用できます。

IPsec 有効化パッケージの入手方法については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/ipsec>

IPsec 有効化パッケージを入手したら、次の例に示すように `pkgadd` コマンドを使用して有効化パッケージをインストールし、`patchadd` コマンドを使用してパッチをインストールしてください。

```
# patchadd 127111-xx
# pkgadd sol-10-u4-ga-sparc-cryptoactivation.pkg
# patchadd 122642-xx
```

---

**注** – 有効化を完了するには、有効化パッケージのインストール後にシステムを再起動する必要があります。

---

パッケージおよびパッチをインストールすると、IPsec は UltraSPARC T2 Plus 暗号化ハードウェアを自動的かつ透過的に使用できるようになります。IPsec の詳細は、<http://docs.sun.com> で『IPsec と IKE の管理』を参照してください。

---

## サポートされる Solaris および Sun System Firmware のバージョン

このリリースの SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバでサポートされるファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョンは、次のとおりです。

サーバには、OS、パッチ、およびファームウェアがプリインストールされていますが、サポートされている同一バージョンまたは別のバージョンをインストールできます。一部のバージョンの OS では、必須パッチのインストールが必要になります。10 ページの「[パッチ情報](#)」を参照してください。

OS をインストールすると、出荷時にプリインストールされたその他のソフトウェアにアクセスできなくなります。6 ページの「[プリインストールされているソフトウェア](#)」を参照してください。

表 1-1 サポートされている OS およびファームウェアの最小バージョン

	サポートされているバージョン	サポートされている最小バージョン
OS	Solaris 10 8/07 OS およびパッチ Solaris 10 5/08 OS およびパッチ Solaris 10 10/08 OS	Solaris 10 8/07 OS およびパッチ
ファームウェア	System Firmware 7.1.0.b System Firmware 7.1.0.g System Firmware 7.1.3.d System Firmware 7.1.3.e System Firmware 7.1.6 System Firmware 7.1.6.d	System Firmware 7.1.0.b

## 特定機能に関する System Firmware の要件

機能	最低限必要なファームウェア	最低限必要な OS
12 枚または 24 枚の FB-DIMM システム構成	7.1.0.g	Solaris 10 8/07 OS および必須パッチ
DC 電源を使用するシステムの動作	7.1.6.d	Solaris 10 10/08 OS
Sun PCI ボックスを使用するシステム	7.1.6.d	Solaris 10 10/08 OS
低電圧 (LV) 1.5V FB-DIMM を使用するシステム	7.1.6.d	Solaris 10 10/08 OS

注 - 『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバサービスマニュアル』で定義されている、システムメモリの構成ルールおよび制限事項のすべてに従ってください。

注 - 強化機能、拡張機能、および修正を有効にするには、使用している System Firmware を使用可能な最新バージョンにアップグレードしてください。

## System Firmware

System Firmware は、ホストおよびサービスプロセッサのさまざまな特徴を制御します。System Firmware は、次の個別のファームウェアコンポーネントで構成されています。

- Integrated Lights Out Manager (ILOM) 2.0 ファームウェア
- OpenBoot™ ファームウェア
- POST ファームウェア
- ハイパーバイザファームウェア
- VBSC ファームウェア

System Firmware の最新版は、Sunsolve<sup>SM</sup> (<http://sunsolve.sun.com>) からパッチリリースとして入手できます。System Firmware を更新すると、個々のファームウェアコンポーネントがすべて更新されます。ファームウェアコンポーネントを個々に更新することはできません。サーバのファームウェアの更新については、『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバインストールレーションガイド』を参照してください。

---

# プリインストールされているソフトウェア

この節では、サーバにプリインストールされているソフトウェアについて説明します。プリインストールされているソフトウェアは、すぐに使用できます。

---

**注** – Solaris OS は、通常操作のために root ディスクのスライス 0 にプリインストールされ、代替ブート環境 (ABE) を提供するために Live Upgrade ソフトウェアとともにスライス 3 にもプリインストールされています。ABE によって、パフォーマンスを低下させることなく OS のアップグレードまたはシステム保守作業を実行できます。ルートパーティション (OS、EIS、およびアプリケーションを含む) と同一のブート可能なコピーが、ABE としてスライス 3 にインストールされています。

---

次の表に、サーバにプリインストールされているソフトウェアを示します。

表 1-2 プリインストールされているソフトウェア

ソフトウェア	場所	機能
Solaris 10 10/08	ルートディスクのスライス 0 (および ABE のスライス 3) とパッチ	オペレーティングシステム
Sun™ Studio	/opt/SUNWspro	C、C++、および Fortran のコンパイラ
LDoms Manager	/opt/SUNWldm/	Logical Domains の管理
LDoms MIB	/opt/SUNWldmib	LDoms 管理情報ベース
CMT ツール	/opt/SUNWspro/extra/bin	Sun Studio Developer ツール
SPARC システム向け Sun Code Generator	/opt/gcc および /opt/SUNW0scgfss	SPARC システム向け GCC コンパイラ

# CoolThreads テクノロジーを利用した Sun サーバ用の Cool Tools

Cool Tools は、最適な構成のソフトウェアソリューションを迅速かつ効率的に開発し、CoolThreads™ サーバに導入するために設計された無償ツールをまとめたものです。これらのツールを使用することによって、このサーバで動作するアプリケーションのパフォーマンスが大幅に向上し、市場出荷までの期間も短縮されます。

Cool Tools の概要およびドキュメントは、次の Web サイトで参照できます。

<http://www.sun.com/servers/coolthreads/overview/cooltools.jsp>

この Cool Tools Web ページに示されているすべての Cool Tools が、サーバにプリインストールされているわけではありません。次のツールは含まれません。

- Consolidation Tool
- CoolTuner
- Cool Stack
- Corestat
- Cooltst
- Sun Application Porting Assistant

---

**注** – Sun Code Generator GCC コンパイラはプリインストールされています。プリインストールされているソフトウェアのリストについては、表 1-2 を参照してください。

---

## Logical Domains

Logical Domains (LDoms) を使用すると、サーバの使用率、効率、および投資回収率が向上します。また、LDoms を使用するとサーバの設置面積が小さくなります。LDoms Manager ソフトウェアは、論理ドメインの作成と管理、および論理ドメインの物理リソースへの割り当てを行います。

---

**注** – LDoms MIB は、使用する前に構成する必要があります。構成手順が記載されている README ファイルは、LDoms MIB インストールディレクトリの `/opt/ldoms_mib` にあります。

---

Ldoms の詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/coolthreads/ldoms/>

# Sun Java Enterprise System および Solaris OS

Sun Java™ Enterprise System は、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。

概要およびドキュメントについては、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

以前はプリインストールされていましたが、Sun Java Enterprise System をインストールするにはこれをダウンロードする必要があります。Sun Java Enterprise System ソフトウェアを入手するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/download>

---

**注** – Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることから発生する問題 (CR 6644798) に対処するために、WebConsole SMF サービスを有効にすることが必要になる場合があります。

---

## ▼ WebConsole SMF サービスを有効にする

- 端末に root としてログインし、次のコマンドを入力します。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

---

**注** – ソフトウェアの新規コピーをダウンロードした場合は、使用しているサーバに必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、システムにパッチが存在するかどうかを確認する手順については、[10 ページの「パッチ情報」](#)を参照してください。

---

## Solaris Live Upgrade

Solaris Live Upgrade テクノロジーによって、OS のアップグレード中にサービスが停止する場合が著しく減少します。このテクノロジーを使用することによって、Solaris OS は、アップグレード中または非アクティブなブート環境での通常保守中でも通常どおり動作できます。

サーバは、root パーティションの正確な複製 (OS、EIS、およびアプリケーションを含む) があるブートディスクのスライス 3 上の liveupgrade パーティションで構成されます。この liveupgrade パーティションは、代替ブート環境 (ABE) です。

Solaris Live Upgrade の詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/software/solaris/liveupgrade/>

Solaris Live Upgrade ソフトウェアはサーバにプリインストールされています。インストールまたはアップグレードする Solaris OS のバージョンに応じて、異なるバージョンの Solaris Live Upgrade のインストールが必要になる場合があります。正しいバージョンの Solaris Live Upgrade のインストール方法については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

## Sun Studio – C、C++、および Fortran のコンパイラとツール

Sun Studio は、C、C++、および Fortran コンパイラをマルチコアシステム上の Solaris OS 用に最適化することで、高いパフォーマンスを提供します。

概要およびドキュメントについては、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://developers.sun.com/sunstudio/index.jsp>

## サポートされている Sun Explorer ユーティリティのバージョン

Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバは、Sun Explorer 5.10 以降のデータ収集ユーティリティではサポートされますが、これより前のリリースのユーティリティではサポートされません。前のリリースの Java ES (以前の Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバにかつてプリインストールされていたソフトウェアなど) から Sun Cluster または Sun Net Connect ソフトウェアをインストールすると、以前のバージョンのユーティリティがシステムに自動的にインストールされます。Java ES ソフトウェアのいずれかをインストールしたあとに、次のように入力して、使用しているシステムに前のバージョンの Sun Explorer 製品がインストールされていないかどうかを確認してください。

```
# pkginfo -l SUNWexplo
```

前のバージョンが存在する場合は、それをアンインストールして version 5.10 以降をインストールしてください。version 5.10 をダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/sunsolve>

---

## パッチ情報

パッチは、<http://www.sun.com/sunsolve> から入手できます。

### Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ情報

パッチは、<http://www.sun.com/sunsolve> から入手できます。

表 1-3 Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ

パッチ ID	説明
124235-02 以降	libpam.so.1 パッチ
125369-13 以降	Fault Manager パッチ
125416-06 以降	UFS ユーティリティのパッチ
125476-02 以降	libc_psr_hwcap.so.1 パッチ
126434-05 以降	raidctl パッチ
127127-11 以降	カーネルパッチ
137111-01 以降	カーネルパッチ

### Solaris 10 5/08 OS の必須パッチ情報

パッチは、<http://www.sun.com/sunsolve> から入手できます。

表 1-4 Solaris 10 5/08 OS の必須パッチ

パッチ ID	説明
137111-01 以降	カーネルパッチ
137291-01 以降	n2cp ドライバパッチ
138048-01 以降	nxge パッチ

購入先に問い合わせサポートを受ける前に、すべての必須パッチがサーバにインストールされていることを確認してください。これらのパッチのインストールに加えて、SunSolve Web サイトを定期的にチェックして、利用可能な新しいパッチがないかどうかを確認してください。

パッチが存在するかどうかを確認するには、[12 ページの「パッチをダウンロードする」](#)を参照してください。

---

**注** – 使用しているサーバにプリインストールまたはプリロードされているソフトウェアのバージョンによっては、これらのパッチが含まれていない場合があります。これらのパッチがサーバに存在しない場合は、[12 ページの「パッチをダウンロードする」](#)の説明に従って、SunSolve からパッチをダウンロードしてください。

---

## パッチ CD

サーバには、パッチ CD (Operating System Patch Recovery CD for UltraSPARC T2 Plus Products, Only for use with the Solaris 10 8/07 OS) が付属しています。

表 1-5 パッチ CD のコンポーネント

パッチ ID	説明
124235-02	libpam.so.1 パッチ
125369-13	Fault Manager パッチ
125416-06	UFS ユーティリティのパッチ
125476-02	libc_psr_hwcap.so.1 パッチ
126434-05	raidctl パッチ
127111-08	カーネルパッチ

この CD は、Solaris 10 8/07 OS をインストールする場合の回復操作に使用することを目的に提供されています。インストールされている OS を Solaris 10 8/07 に置換する場合は、CD に収録されているパッチをインストールしてください。

---

**注** – CD 上のパッチには、更新されたネットワークドライバが含まれています。このドライバは、Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ上のネットワークインタフェースを使用可能にするために必要なものです。Solaris 10 8/07 OS およびパッチをインストールしたあとでも、ネットワークインタフェースは構成解除されたままです。Solaris の `sys-unconfig (1M)` コマンドを使用するか、ネットワークオプションを手動で構成すると、ネットワークインタフェースを構成できます。Solaris 10 8/07 OS のドキュメントを参照してください。

---

## ▼ パッチをダウンロードする

1. 必要なパッチがシステムにインストールされているかどうかを確認します。

たとえば、showrev コマンドを使用して、パッチ番号ごとに次のように入力します。

```
# showrev -p | grep "Patch: 123456"
```

- 照会したパッチに関するパッチ情報が一覧表示され、ダッシュに続く数字 (下 2 桁) が必要なバージョンと一致しているか、またはそれより大きい場合は、使用しているシステムには適切なパッチがすでにインストールされています。それ以上の処置は必要ありません。

たとえば、パッチ 123456-16 以降がインストールされている場合、使用しているシステムにはこのパッチの必要なバージョンが適用されています。

- 照会したパッチに関するパッチ情報が表示されない場合、またはダッシュに続く数字が必要なバージョンよりも小さい場合は、[手順 2](#)に進みます。

たとえば、123456 パッチのどのバージョンもインストールされていないか、またはインストールされている 123456 パッチのダッシュに続く数字が 15 以前である場合は、新しいパッチをダウンロードしてインストールする必要があります。

2. <http://www.sun.com/sunsolve> にアクセスして、パッチをダウンロードします。  
SunSolve のパッチ検索ツールで、基本のパッチ ID 番号 (先頭の 6 桁) を指定してパッチの現在のリリースにアクセスしてください。
3. 指定したパッチの README ファイルに記載されているインストール手順に従います。

## オプションカード用のパッチ

サーバにオプションカードを追加する場合は、それぞれのカードに関するドキュメントおよび README ファイルを参照して、追加のパッチが必要かどうかを確認してください。

---

## アイドル状態のディスクドライブによる消費電力の管理

SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバは、Solaris OS ディスクの電源管理機能をサポートします。この機能の使用方法については、次の Web サイトにアクセスして BigAdmin の記事を参照してください。

[www.sun.com/bigadmin/features/articles/disk\\_power\\_saving.jsp](http://www.sun.com/bigadmin/features/articles/disk_power_saving.jsp)

記事「Managing the Power Used by Idle Disks in Servers Running the Solaris 8 OS or Above」では、Solaris 8 OS 以降が動作しているサーバ上のアイドル状態のディスクによって使用される電力を管理する状況および方法について説明しています。

---

## Logical Domains を Solaris OS と併用した場合の動作上の変更点

この節では、Logical Domains Manager によって構成が作成されたあとの、Solaris OS 使用時の動作上の変更点について説明します。

---

注 – Solaris OS の起動後に OpenBoot ファームウェアが使用できなくなります。これは、OpenBoot ファームウェアがメモリーから削除されるためです。Solaris OS から ok プロンプトに切り替えるには、そのドメインを停止する必要があります。Solaris OS の halt コマンドを使用すると、ドメインを停止できます。

---

## 制御ドメインを停止または再起動した場合の結果

次の表に、制御 (primary) ドメインを停止または再起動した場合の予想される動作を示します。

表 1-6 制御 (primary) ドメインを停止または再起動した場合の予想される動作

コマンド	ほかに構成されているドメインがあるか	動作
halt	いいえ	ホストの電源が切断され、SP で電源が投入されるまで切断されたままです。
	はい	変数が <code>auto-boot?=true</code> に設定されている場合は、リセットされて起動します。変数が <code>auto-boot?=false</code> に設定されている場合は、リセットされて <code>ok</code> プロンプトで停止します。
reboot	いいえ	ホストが再起動されますが、電源は切断されません。
	はい	ホストが再起動されますが、電源は切断されません。
shutdown -i 5	いいえ	ホストの電源が切断され、SP で電源が投入されるまで切断されたままです。
	はい	リセットされて再起動します。

## XAUI カードがオンボードのネットワークポートを使用不可にする

Sun 10GbE XFP XAUI アダプタカード (XAUI カード) をスロット 0 に取り付けると、オンボードのネットワークポート 1 (NET1) が使用不可になります。XAUI カードをスロット 1 に取り付けると、オンボードのネットワークポート 0 (NET0) が使用不可になります。

# CPU のホットインサートイベントの可能性を示すメッセージ

CPU が電源を入れたまま挿入されたことを示すメッセージが、コンソールおよびログに表示されることがあります。これらのメッセージは、システムでファームウェアのアップグレードまたはシステムコンポーネントの変更が行われた場合に、システムの初期電源投入時に生成されます。これらのメッセージは、ファームウェア version 7.1.3.d 以降を使用するシステムでのみ生成されます。次に例を示します。

279	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/CORE0				
278	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P7				
277	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P6				
276	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P5				
275	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P4				
274	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P3				
273	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P2				
272	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P1				
271	Mon Oct 27 11:26:31 2008	Chassis	Action	major
Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P0				
...				

これらのメッセージは、リソースすべての一覧を示すものではなく、システムで使用可能なコアおよびスレッドを表示しています。CPU に含まれるコアが 8 個よりも少ない場合、不足しているコアは報告されません。

コンポーネントは自動的に検出されます。この検出は、「ホットインサート」イベントと呼ばれています。いったんコンポーネントが識別されると、ホットプラグ対応の CPU ボードを搭載したシステムでのシステム構成の変更や、CPU スレッドまたはコアに障害が発生しているかどうかは ILOM で検出されないかぎり、これ以降のメッセージは表示されません。

# プロセッサ ID

## プロセッサ ID が 0 で始まらないことや、プロセッサ ID が不連続であることがある

プラットフォームが異なる場合、および機種が同じでプラットフォームが異なる場合は、構成が同じでもプロセッサ ID が異なる場合があります。たとえば、UltraSPARC T1 CPU ベースのプラットフォームの場合、プロセッサ ID は 0 で始まります。ただし、UltraSPARC T2 Plus CPU ベースのプラットフォームを含むほかのプラットフォームの場合、0 のプロセッサ ID がないことがあります。UltraSPARC T2 Plus プロセッサベースのプラットフォームの場合、Solaris の `psrinfo` コマンドの出力は次のようになります。

8	on-line	since 09/18/2007 21:26:25
9	on-line	since 09/18/2007 21:26:30
16	on-line	since 09/18/2007 21:26:30
17	on-line	since 09/18/2007 21:26:30

仮想マシン管理プログラムによって、プラットフォームで複数のゲストドメインが動作している場合、ゲストドメインにエクスポートされるプロセッサ ID が、仮想の抽象物を表わすことがあります。各ゲストドメイン内でソフトウェアが認識する各プロセッサ ID は、一意の整数値です。

同じ物理マシン上に複数のゲストドメインがある場合、それらのゲストドメイン上で動作するソフトウェアが認識する仮想プロセッサ ID は、同じである場合と異なる場合があります。ドメイン化が有効になっている場合、仮想プロセッサ ID と物理プロセッサ ID が同じになることはありません。仮想 CPU 番号と物理 CPU 番号のマッピングについては、最新の『Logical Domains (LDoms) 管理ガイド』を参照してください。

プロセッサ ID は、単に、ソフトウェアが動作しているドメイン内で一意となる整数値です。この整数値のタイプは、`processorid_t` になります。また、`p_online(2)` のマニュアルページも参照してください。

## 第2章

---

### 既知の問題

---

この章は、次の節で構成されています。

- 17 ページの「ハードウェアおよび機器に関する問題」
- 19 ページの「Solaris OS に関する問題」
- 19 ページの「Integrated Lights Out Manager (ILOM) に関する問題」
- 21 ページの「ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題」

---

### ハードウェアおよび機器に関する問題

この節では、このリリースの SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバで、ハードウェアに存在する既知の問題について説明します。

#### フロントパネルの DVD および USB モジュール

一部の DVD/USB モジュールには、引き出しタブ機能がありません。代わりに、DVD/USB モジュールの底面にあるくぼみを使用して、装置を取り外します。このため、直接接続の USB デバイスまたは USB ケーブルをフロントパネルの USB ポートから引き抜くときに、一部の DVD/USB コンテナがディスクバックプレーンから誤って外れてしまうことがあります。

回避方法: USB デバイスを取り外すときには、DVD 構成部品を押します。また、DVD または CD が挿入され、動作している場合は、USB デバイスを取り外さないでください。

# ホットスワップ対応のファンモジュール

ファンモジュールを取り外す場合は、隣接するファンモジュールが誤って外れないように、隣接するファンモジュールを所定の位置で抑えてください。

## 予期しない LED 動作

内蔵ドライブを使用して RAID ボリュームを作成すると、予期しない LED 動作が発生します。ボリューム内のディスクのすべての LED が約 16 秒ごとに同時に点滅します。これは正常な動作であるため、無視しても問題ありません。

表 2-1 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのハードウェアに関する問題

CR ID	説明	回避方法
6677336	エアダクトの取り外しまたは交換を行うときに、DC/DC コンバータのコンデンサが損傷する可能性があります。	エアダクトの取り外しまたは交換を行う際には、マザーボードのコンポーネントにぶつかったり、衝撃を与えたりしないように注意してください。
6687915, 6687916	シャーシ内部のコンポーネントは高温になります。一部のコンポーネントには、端が鋭くなっているものがあります。	サーバを保守するときは、シャーシの内部での作業を慎重に行なってください。たとえば、保守手順を実行する前に、数分間サーバを冷却します。また、マザーボードのヒートシンクに触れないようにします。
6757022	ホストの電源が入っている間にサービスプロセッサをリセットすると、ホストがクラッシュする可能性があります。	システムの電源が入っている間に、サービスプロセッサをリセットしないでください。 この問題が発生した場合は、サーバの電源を再投入してください。
なし	システムが初期化されると、ファームウェアが読み込まれ、約 128M ~ 352M バイトのホストメモリーが使用されます。バナーおよびその他のソフトウェアユーティリティでは、ファームウェアで使用されるメモリー量を差し引いたメモリー量が報告されます。	バナーでは、ファームウェアで使用されるメモリー量を差し引いたメモリー量が報告されていることに注意してください。

## Solaris OS に関する問題

この節では、このリリースの SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバで存在する、Solaris OS の既知の問題について説明します。

表 2-2 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバの Solaris OS に関する問題

CR ID	説明	回避方法
6588550	<code>prtdiag -v</code> コマンドの処理が遅くなり、ハングアップしているように見ることがあります。このコマンドは、完了するまでに最長 5 分かかることがあります。	
6637996	OpenBoot PROM 変数 <code>pci-mem64?</code> の値は、次の 1 つの例外を除いて、 <code>true</code> (デフォルト値) に設定されている必要があります。 <code>bootmode</code> が <code>reset_nvram</code> に設定されている場合は、最初の電源投入時に値が <code>false</code> になります。 2 回目の電源投入時に、 <code>bootmode</code> は <code>normal</code> にリセットされ、 <code>pci-mem64?</code> のデフォルト値は <code>true</code> に戻ります。	<code>pci-mem64?</code> の値を確実に <code>true</code> に設定するには、ILOM CLI (DMTF CLP または ALOM 互換 CLI) を使用して変数を設定できます。この設定値は、別の CLI 操作によって変更されるまで保持されます。

## Integrated Lights Out Manager (ILOM) に関する問題

ILOM には、Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバを管理するための複数のインタフェースが用意されています。ILOM DMTF CLP は、デフォルトのサーバビスパロセッサ (SP) コマンド行インタフェース (CLI) です。ILOM では、Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT 互換 CLI も提供されています。この節の問題の説明には、いずれかの CLI の使用方法も示されています。

ILOM の詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ』 および 『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバアドミニストレーションガイド』を参照してください。

次の表に、ILOM CLI および ALOM CMT 互換 CLI (ILOM 上) に関する既知の問題を示します。

表 2-3 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバの ILOM に関する問題

CR ID	説明	回避方法
6586305	デフォルト以外の論理ドメインを構成したあとで SP の <code>setdate</code> コマンド (ALOM 互換シェル) を使用すると、デフォルト以外のドメインの日付が変更されることがあります。	論理ドメイン構成を設定および保存する前に、 <code>setdate</code> コマンドを使用して SP の日付を設定します。  デフォルト以外の論理ドメイン構成を保存したあとで <code>setdate</code> を使用する場合は、デフォルト以外の各ドメインで Solaris まで起動し、日付を修正する必要があります ( <code>date(1)</code> または <code>ntpdate(1M)</code> を参照)。
6587380	Solaris の <code>prtdiag -v</code> コマンドを実行すると、「Voltage Indicators」という見出しの下に、電圧を示すインジケータではなく、センサーインジケータが表示されます。該当するセンサーインジケータには次のものがあります。	
	<pre> SYS/MB          I_USB0          ok SYS/MB          I_USB1          ok SYS/PSx         CUR_FAULT       ok SYS/PSx         FAN_FAULT       ok SYS/PSx         TEMP_FAULT      ok </pre>	
	ただし、「Condition」列の下で報告される情報は、正確なものであり、コンポーネントの現在の状態を表しています。	
6637358	ILOM ブラウザインタフェース、ILOM DMTF CLP、および ALOM CMT の下位互換の CLI では、それぞれ表示されるコンポーネントのリストの内容が異なります。ILOM ブラウザインタフェースおよび DMTF CLP の <code>show components</code> コマンドは、システムに存在するコンポーネントに関する情報を表示します。無効になっている CPU コアのスレッドステータスは、ブラウザインタフェースでは「Unknown」と表示され、DMTF CLP では「(none)」と表示されます。	
	ALOM CMT CLI の <code>showcomponents</code> コマンドは、すでに有効になっているシステムに追加できる存在しないコンポーネント (DIMMS、XAUI カードなど) のほか、システムに存在するコンポーネントを一覧で表示します。 <code>showcomponents</code> コマンドは、無効になっている CPU コアのスレッドは一覧に表示しません。	

# ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

この節では、このリリースの SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバで、ファームウェアおよびその他の一般的なソフトウェアに存在する既知の問題について説明します。

表 2-4 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのファームウェアおよび一般的なソフトウェアに関する問題

CR ID	説明	回避方法
6555956	再起動中にパニックが発生し、次のメッセージが表示されることがあります。 Fatal error has occurred in: PCIe root complex. パニックは再起動時のみに発生し、パニック後の再起動で発生したことはありません。	パニック後に自動的に再起動するようにシステムが設定されていることを確認します。自動再起動の設定については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ』を参照してください。
6651903	SunVTS™ xnetlbttest を内部ループバックモードで実行した場合に、テスト時間が長くなると、断続的に失敗することがあります。次のエラーメッセージが表示されて失敗します。 Excessive packets dropped	
6603354	XAUI のループバックテスト中に、SunVTS xnetlbttest が失敗することがあります。次のエラーメッセージが表示されて失敗します。 Excessive packets dropped	XAUI インタフェースに対して SunVTS xnetlbttest を実行しないでください。
6655397 6637246 6525647	暗号化装置に関連付けられていない CPU がある LDoms 構成で、暗号ジョブが失敗することがあり、場合によってはシステムパニックが発生します。 SunVTS cryptotest を実行すると、システムパニックが発生する場合、またはエラーメッセージが生成される場合があります。 この障害は、LDoms のドメイン化が有効または無効のどちらの環境でも発生する可能性があります。	ドメイン内の CPU の数は、ドメインの各 MAU に 8 個の CPU が割り当てられるように構成します。 SunVTS cryptotest を実行しないようにします。

表 2-4 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのファームウェアおよび一般的なソフトウェアに関する問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6581309	<p>グラフィックスデバイスおよびキーボードをコンソールで使用するよう指定すると、制御ドメインのコンソール動作の一貫性がなくなります。</p> <p>OpenBoot 変数 <code>input-device</code> および <code>output-device</code> がデフォルト値の <code>virtual-console</code> 以外に設定されている場合に、この状況が発生します。</p> <p>制御ドメインがこのように設定されていると、一部のコンソールメッセージがグラフィックスコンソールに送信され、ほかのメッセージが仮想コンソールに送信されます。その結果、どちらのコンソールの情報も不完全になります。また、システムが停止した場合またはブレイクがコンソールに送信された場合に、制御が仮想コンソールに渡され、仮想コンソールを介したキーボード入力が必要になります。その結果、グラフィックスコンソールがハングアップしたように見えます。</p>	<p>仮想コンソールのみを使用します。</p> <p>ok プロンプトから、<code>input-device</code> 変数および <code>output-device</code> 変数の両方に <code>virtual-console</code> のデフォルト値を設定するようにします。</p> <p><code>input-device</code> および <code>output-device</code> が <code>graphics console</code> に設定されていて、グラフィックスコンソールがハングアップしているように見える場合、サービスプロセッサから仮想コンソールに接続して、必要な入力を行います。仮想コンソールキーボードで <b>Return</b> キーを 1 回押して、仮想コンソールでの出力を確認します。</p>

## 第3章

---

# ドキュメントの正誤情報

---

Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのドキュメントに記載されている情報の一部は、正しくありません。この章では、次の項目について説明します。

- 23 ページの「『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバインストールガイド』の誤り」

---

## 『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバインストールガイド』の誤り

『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバインストールガイド』の情報の一部は、正しくありません。以降の節に正誤情報を示します。

### システム状態インジケータの順序

8 ページの図 1-4 および 10 ページの図 1-6 で、図の説明で示されているシステム状態インジケータの順序は、どちらも正しくありません。システム状態インジケータの正しい順序は、上から順に、ロケータ LED ボタン、保守要求 LED、電源 OK LED、および電源ボタンです。

